

## 国語科学習指導案

令和5年6月23日(金)5校時

2年D組 40名

指導者 釘宮 里枝

1 単元名 中学生は「日本のコロナ対策」をこう総括する! 【討論】自分の考えと相手の考えを論じ合おう

### 2 単元設定の理由

#### (1) 教材について

- ・討論とは、それぞれの立場からの考えを述べ、互いの考えの違いなどを基にして論じ合う活動である。そのため、主張を支える根拠(事実)と論拠(考え・解釈)を分けることで論理的に考えさせることができるとともに、自身の立場だけでなく、相手も同じように主張を支える根拠と論拠を有していることを意識させることのできるものである。
- ・討議のテーマは「日本のコロナ対策」についてである。「日本のコロナ対策」は5月8日をもって緩和の方向に大きく舵を切ったが、これまでの対策で、中学生も大きな影響を受けた。社会の動きを自分事として考えることができ、その考えも多様であることが予想される題材である。
- ・今回の討論では、最終的にどちらかの立場を選択することではなく、それぞれの立場で意見を述べ合い、「日本のコロナ対策」の総括をすることに重点をおく。そうすることで、自分の考えだけでなく、相手の立場や考えを尊重し、今後のために建設的に話し合う態度の育成を目指したい単元である。

#### (2) 学習者について

- ・事前アンケートの「自分の話や文章を論理的なものにするためにどのようにすればいいか、自分なりの方法を持っているか」という項目に対して、「持っている」と回答した割合は91.5%と高かったものの、「たぶん持っている」「持っているが合っているか不安」と回答した割合も73.7%と高く、論理的なものにするための方法を確立している学習者は少ない。
- ・昨年度、単元「磨け!MC力~中学生の『〇〇ほしい・したい』を刺激しよう~」において、同じ立場である中学生を聞き手とした活動を行った。振り返りの記述では、立場の違う人に対しても挑戦してみたいという記述が多く見られ、相手意識を広げた内容の検討を行いたいという意欲が見られた。
- ・話し合い活動は概ね活発に行うことができ、昨年度、単元「この人の魅力を伝えたい!」でのインタビューの活動を通して、話し手に寄り添うことや話しやすい雰囲気を作り出すことの大切さを実感する様子も見られたが、考えの相違がある場合には、打ち勝ち、論破することに重きを置く姿やそういった発言に同調する様子が見られることもある。

#### (3) 指導について

- ・自身の考えおよび異なる立場、両方についての情報収集をし、討論で話したいことを論理的に検討するために京都大学教授 松下佳代氏が提唱している「対話型論証モデル」を基にしたワークシートを使用する。
- ・討論をより充実したものにするために、「対話型論証モデル」の作成する際に、「日本のコロナ対策」の中から具体的な4~5つの観点到に絞る。そうすることで、話し合いの焦点を絞りやすくする。
- ・本単元のめあてを「『日本のコロナ対策』を総括する建設的な討論をしよう」と設定し、それぞれの立場の主張や根拠を確かめ合い、「日本のコロナ対策」の総括をすることを目指させる。代表者による討論の分析や実演で「建設的な討論」の実現のために必要なことを考えることを通して、学習者自身が相手の立場を尊重することの重要性に気づくとともに、そのための具体的な言動の在り方を見出せるようにする。

### 3 単元の目標および評価規準

情報と情報の関係を重視した話し合い活動を通して、異なる立場や考えを想定しながら情報を集め、整理するとともに、互いの立場や考えを尊重しながら自分の考えをまとめていくことができる。

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
①意見と根拠、具体と抽象など情報と情報の関係について理解することができる。 (情報と情報の関係-ア)	①建設的な討論という目的の下、「日本のコロナ対策」について、異なる立場の考えを想定しながら集めた情報を整理し、伝え合う内容を検討することができる。(話すこと-ア) ②互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、自分の考えをまとめることができる。(話すこと-オ)	①情報と情の関係について理解し、他教科を含めた今後の学習に活かそうとしている。 ②建設的な討論にするために、多様な情報を集め、自ら整理して内容を検討しようとしている。 ③互いの立場や考えを尊重し、自分の考えをまとめようとしている。

### 4 指導と評価の単元計画

時	主な学習活動・ねらい	指導上の留意点【問いの工夫】	評価規準			評価方法
			ア知・技	イ思判表	ウ主体	
1	目的を理解し、4~5つに絞った「日本のコロナ対策」についての情報を収集し、自分の立場を決定する。 ⇒自身の立場を明確にする。	・あなたは、「日本のコロナ対策」を成功だと思うか？失敗だと思うか？ ・日本のコロナ対策について調査して、自分の立場を明確にしよう。		●		ワークシート①
2 ~ 4	自分の立場を支える情報と、相手の立場を支える情報を収集整理し、対話型論証モデルを作成する。 ⇒自身の主張を論理的に構築するとともに、相手の立場の論理展開とその反論を想定する。	・対話型論証モデルを活用しよう。 ・対話型論証モデルに当てはめ、自分の主張や相手への反論を想定する。	●	●	●	ワークシート② 振り返りシート
			●	●	●	
			○	○	○	
5 (本時) ~ 6	[プレ討論]「建設的な討論」の実現をめざした話し合いの仕方を学ぶ。 [討論]互いの立場を尊重しながら討論をする。 ⇒「建設的な討論」の実現を目指した話し合いを行う。	・中学生は「日本のコロナ対策」をこう総括する！ ・「建設的な討論」を成立させるために必要なことは何か。		●	●	動画 振り返りシート 観察
				○	○	
7	動画およびワークシートを用いて、単元のふりかえりを行う。	・本単元をふりかえろう。 ・世の中をよりよくするための話し合いについて考えよう。			○	振り返りシート

※記録に残す評価(○) 記録に残さない評価(●)

※●は、形成的評価として行う。また、2・3・5時間目においても、4・6時間目の形成的評価として評価を実施する。

【努力を要する状況(C)に対する手立て】

- ・ワークシートの使用する枠を限定し、自分の主張を中心に情報の収集整理を行う。
- ・同じ、または近い立場を選択している学習者での交流を行うために、ワークシート②をICT端末で共有する。
- ・討論中の発言の仕方について型を示す。

5 本時の指導

(1) 本時の位置づけ(5/7)

(2) 題材 中学生は「日本のコロナ対策」をこう総括する!

(3) 本時のねらい

互いの立場を尊重し話し合うために必要なことを、対話型論証モデルを用いた代表者による討論を観察することを通して、見出すことができる。

- ・中学生は「日本のコロナ対策」をこう総括する!という言語活動を設定する。
- ・「建設的な討論」を成立させるために必要なことは何かと代表者の討論を観察し考えさせる。

(4) 展開

時間	学習活動	学習内容及び指導上の留意点	評価
3	1 単元のめあてと本時の学習内容を確認する。	○単元プランシートで単元における本時の位置づけと学習目標を確認する。	
単元のめあて 「日本のコロナ対策」を総括する建設的な討論をしよう			
3	2 本時の課題と出会う	○今回の単元におけるキーワード「総括する」、「建設的な」を確認する。	
課題 「建設的な討論」を成立させるために必要なことは何か。			
15	3 [代表者による討論]を観察し、良かったところと改善すべきところを考えさせる。	○代表の学習者(司会:1名,話し手:4名)による討論(6分)をICT端末で視聴させ、聞き取りメモを作成させる。 ○聞き取った内容を共有する。 ○この討論は、討論として良い部分もあるが「建設的な討論」には達していないことを伝え、良いところと建設的なものにするために改善すべきところを考えさせる。 ○どうしたら建設的になるのかを中心に班で考えさせる。	互いの立場を尊重し合うために必要なことを見出すことができている。(話すこと一オ)
12	4 課題についての考えを交流する。	○全体で考えを交流する。	
<p>まとめ〈予想される考え〉</p> <p>【良かったところ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相手の話をうなずきながら聴いていた。・丁寧な言葉で伝えようとしていた。(態度)</li> <li>・初めの主張の中で、主張と根拠と論拠をしっかりと述べていた。(論理的な話し方)</li> <li>・根拠で具体的な数値を述べていた。(説得力)</li> </ul> <p>【改善すべきところ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・意見の交換の場では、確かな根拠がなく主張や論拠だけを述べている。 →意見交換でも根拠をしっかりと述べるべきである。</li> <li>・立場に対しての反論ばかりをしていて、話が先に進んでいない。話が平行線になっている。 →主張の違いではなく、討論の中で話し合うべき互いの意見の相違点はどこなのかを考える。 そのためには、共通点はどこなのかを整理していく。</li> </ul>			

		○代表者の討論のメモ「ワクチン」についての部分を用いて、共通点の整理を行い、討論の焦点の絞り込みの方法を示す。	
9	5 説明・事前のワークシートの確認 (3分) [プレ討論](6分)	○1グループ5名で構成する。 ○司会者(班長)進行メモを参考に進めさせる。 ○話し手は、4人とする。相手の立場や考えを理解しやすくするために討論メンバーのワークシート②を cloud で共有し、前時で確認しておく。	
8	6 振り返り	○プレ討論での振り返りを行わせる。司会者から見た話し手の評価とともに、話し手同士や話し手自身の評価も交流させる。 ○全体でプレ討論の振り返りを共有する。 ○本時を振り返り、次回の討論での自身の目標を立てる。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>振り返り 建設的な討論をするために必要なものが理解できたか。 次回の討論での自身の目標は何か。</p> </div>			

(5) 学習記録計画

